

会津喜多方国際交流協会

どてめぐみ 土手 恵さんに聴く

1984年生まれ。

喜多方高校卒業後、ニュージーランドの大学へ進学し、マーケティングとインターナショナルビジネスを専攻。卒業後は東京の電子機器メーカーで働き、結婚を機に地元塩川町にUターン。

家族構成は、夫、娘（3歳）、愛犬。

現在は会津喜多方国際交流協会の運営業務に携わる。



～ 会津喜多方国際交流協会の活動 ～



海外諸国との文化ならびに経済の交流を通じて国際理解を深め、国際社会の友好と平和に貢献することを目的としています。

主な事業として、米国オレゴン州ウィルソンビル市との姉妹都市交流、外国人向け日本語教室、外国料理教室や外国語講座などを実施しています。

英語を学んだきっかけは

子どもの頃から海外への憧れがあり、高校2年生の夏休みにニュージーランドへ行き、ホームステイをしながら語学学校へ通いました。

英語を学んだ経験談など

最初は想像していた以上に英語ができないという現実に落胆しましたが、「英語」という言語を通していろいろな国の方と意思疎通ができること、自分にはまだ知らない世界がたくさんあり、自分の常識が世界の常識ではないと分かり、衝撃を受けました。その頃から英語を勉強することが目的ではなく、英語を使って何を学びたいのか、という考えに大きく変化していきました。

ウィルソンビル市短期研修生派遣の引率者として感じたことは

喜多方市とウィルソンビル市が深い友情と強い絆で結ばれていることが至る所に感じられ、また温かく迎え入れていただきました。その背景には、これまで姉妹都市



▲ウィルソンビル市の方々と

交流に携わってきた方々の熱意と努力があったものと拝察し、私もこの交流事業に携わる一人として、その責任と重みを噛み締めています。31年にわたるこの「絆」をより強固なものに、そして友情の輪を広げていけるよう務めていきたいです。

男女共同参画社会と国際交流について

近年、あらゆる分野で国際社会を視野に入れた男女共同参画社会づくりが求められていると思います。外国人が日本で生活する際、「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」に突き当たると言われ、医療や福祉、教育や防災などさまざまな分野でどう共生するかの在り方が問われている

と思います。自治体や企業・地域団体や市民の皆さんと連携・協働しながら、一人でも多くの方にその関心を「他人事」から「自分事」として捉えてもらえるよう働きかけていくことが私たち協会の重要な役割だと考えています。国や文化、性別の違いにとらわれず、多様性を認め合い、個性が尊重されるまじづくりに取り組んでいきたいです。

今後の抱負について

協会の活動には市民の皆さんの理解や協力が必要です。市民の皆さんが、もっと気軽に国際交流に参加できる機会を増やし、興味や関心を持ってもらえるよう活動していきたいです。そして、ボランティアとして一緒に活動してくれる方が増えたら嬉しいですね。また、市内在住の外国人が、家庭や職場以外で人とつながりを持つことができるような地域交流の機会を作っていきたいです。

問 企画調整課 企画調整班
☎(24)5209